

東久留米市立第三小学校 第6学年

| 教科 | 学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す) | 具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す) |
|----|--|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査では、三小の全体平均正答率は全国のそれと同等だった。「話すこと・聞くこと」をはじめ、多くの領域で学習の成果が上がっている。「情報の扱い方」の領域においては、全国の平均正答率より3ポイント高く、昨年度までの研究の成果である論理的思考の高まりがみられる。 ・記述式で回答する設問においては6割弱の児童に課題が見られる。 ・既習の漢字や文法など定着しておくべき知識・技能に課題が見られるとともに、ノート記述の際に漢字を適切に使うことに課題がある児童が3割程度いる。 | <p>指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや相手、目的が明確な書く活動を計画的に指導計画に組み込む。 <p>学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末やホワイトボードを活用して、お互いの意見を共有する活動を取り入れることで、相手に伝わる表現を身につけさせる。 <p>まとめ・振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに応じた「まとめ」や「振り返り」を、ノートへの記述やAIアプリケーションを活用して実施する。1単位時間や単元を通して、ねらいを意識して学習することで、学習効果を上げる。 ・自分が書いた文章を自分で声に出して読んだり、相手に声に出して読んでもらったりする活動を繰り返し行い、正しく書く意識付けを行う。 <p>上記改善策により、自分の考えを正しく(既習の漢字を使って、正しい文法で)書くことのできる児童を6割以上にする。</p> |
| 算数 | <p>○全国学力・学習状況調査の結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体としては平均正答率66.0%と都平均を2ポイント下回り全国平均を2.6ポイント上回っている状況である。 ・分速を公式を適用して求める、積の求め方と答えを解答する問題では、都平均をそれぞれ4.6、4.8ポイント上回っている。公式を適用するなどの定型的な問題に対しては、理解がすすんでいる状況である。 ・どちらが速いかを言葉や数を使って説明する場面、開花予想日を求める場面では、正答率が50%以下で都平均からも4、7ポイントと優位に低い状況である。問題構造を理解し式を考えるなど式や数の意味理解を理解する学習の理解が不十分である状況である。 | <p>学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式を導き出す場合、ただ暗記するのではなく公式を児童が作り出す過程を授業の中で設定する。 ・式の意味や数の意味を問う場面を1単位時間に1回以上授業で設定する。 <p>学習集団編制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに既習事項を把握するレディネステストを実施し、課題に応じた学習集団編制(習熟度別少人数指導)をする。 ・学習集団ごとに、問題設定や学習展開及び手立ての工夫をし、それぞれの課題に合った指導を展開する。 <p>上記改善策により、ワークテストの立式部分の正答率70%以上を目標とする。</p> |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価テストにおいて、思考力・判断力・表現力の観点の正答率が、単元を問わず50%台である。中でも、科学的根拠をもって思考・表現する場面の正答率が低い。 ・日常生活や観察の中から課題を見出すことに課題がある。 | <p>問題設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を明らかにする実験や観察か目的を明確にしてノートに書かせる。 ・実験の立案の際に常に実験の目的に振り返る場面を設定する。 <p>→ワークテストの思考・表現で70%を目標とする。</p> <p>評価活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型の授業の中で解決方法や予想、見積もりなどを問う場面を評価する機会を多く設ける。ホワイトボードやテキストマイニング等を活用して児童相互の交流及び共有を促進する。指導と評価の一体化により、思考力・表現力を向上させる。 <p>→解決方法をキーワードなど言語化して書く児童60%以上、自分なりの予想や見積もりを書く児童80%以上を目標とする。</p> |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・男女ともに、「立ち幅跳び」、「反復横跳び」、「50m走」が全国平均を大きく下回っている。身体全体を使って運動することに課題があることが分かる。 ・健康に関する意識調査(健康のために、学習したことを生活に役立てているか?)において、肯定的回答が80%を下回っており、学習したことの日常化に課題がある。 | <p>個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の設定を工夫し、安心して運動に取り組めるようにすることで、運動機会を増やす。 <p>評価活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に合った目標を数値化(モノグラム)し、目標を見える化するとともに、目標に合った指導と評価を繰り返す。 <p>まとめ・振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいについての振り返りの中で、日常化について扱うことで、健康に関する意識調査の肯定的回答を80%以上にする。 |